

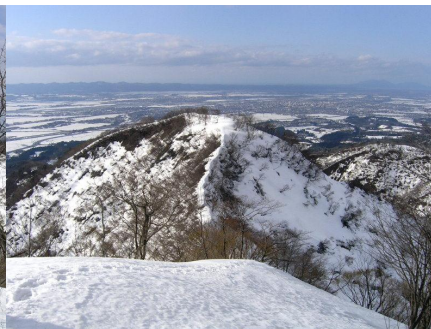
## 大 峰 山 山 行 記 録



ヤブの登り



やせ尾根を経て山頂へ



ピークと市街地を見て下る

目的地	大峰山（長岡市村松から）	期 日	平成22年3月8日（月）・曇りから晴れ
山人	笠原正雄・高橋誠一・かよ子・土田ミエコ	特 記	宿題となっていた山。3度目にしようやく登頂。

地 点 名	時 刻	記 事
柿小学校附近 P	午前 11:40	到着後すぐに高橋夫妻来る。ミエコは高町までオーバーランしてから戻って来た。俺の車一台に同乗してもらい村松町へ。
路側駐車地点	12:05 発	村松橋を渡って、バス回転場の斜め手前に丁度良く雪が無いスペースがあった。
太田川右岸へ		川岸から山道に入るとすぐに雪上歩きとなる。壺足で進む。腐った雪で時々抜かる。随所に落とし穴がある。
養鯉池の左を進む		薄暗い杉植林地の沢状の中、倒木を避けながら左右に進む。今年はどこでも倒木が多い。
カンジキを履く	12:25	杉植林地を抜け雑木の急登となる。ここでカンジキを履く。右へ登ればやや広い尾根が先に緩登している。
マンサクが咲く	12:55	丁度いい時季だろうか、多く咲いている。近接撮影したが、全てピンボケ。少しツブ雪が舞って来た。しかし晴天に向かう予報を信じて進む。
ヤブ急登	午後 1:20	概ね雪上あるきだが、急斜面になると雪が消えている。露出して夏道と思われる箇所も幾つか見られたが、不明瞭だ。灌喬木に掴まりながらかきあがる。
標高 530m 台地		昨年1月の引き返し点（標高 436m）から先へ登って台地上がる。そこでようやく山頂を確認出来た。やや下って細尾根となる。
ナイフリッジ		右側は喬木、左は急斜面。鋭角に雪稜となっている。少し気持が萎えたが、ストックからスコップに持ち替えて頭を削り、足場を作りながら進む。それ程進まぬうちに見た目ほどではなくなった。
雪質が変る		山頂直下になると尾根は緩やかになり、今朝降ったばかりの雪が表面を覆い、いい感じになる。良く晴れて来た。
三角点山頂	2:25 着	途中、寒さを寒じた気温も上がり、快晴となり、周囲が良く見渡せる。緩やかな雪庇の南側に雪穴を掘りランチ場を作る。その間に3人はすぐ先の H573 地点まで行って来て貰う。穴掘り作業約 15 分か。ミエコさんに obake 茶屋との名称を頂いた。朝仕込んだ自称三平汁を温めて皆で食す。また、ミエコさんからイナリ寿司をご馳走になる。かよ子さんのご馳走も頂く。350 缶 1 本。
H 5 7 3 地点へ	3:35	ランチを終えると、3人に促されて行ってみる。すぐ下には竹之高地集落が見えた。そちら側から上れば短時間で山頂に立てる。また、南蛮山へも尾根が続いていて縦走が可能に見えた。三角点に戻って下山へ。ザックの中で携帯メールが鳴った。下山後見たら角田山での K 女史からのものだった。530m 台地の先に市街地が望める。
標高 530m 台地	3:50	登りで一度通過したナイフリッジも、経験済でストレス無く戻れた。ここからもう一度山頂を振り返る。
南長岡平野に下る		樹林が切れば平野が一望だ。気分良く下る。枝に掴まっの急降下は腕力が必要。途中、ミエコさんが3回ほど滑って尻餅をつく。
路側駐車地点	5:05	陽が長くなった。雪が切れる太田川右岸路までカンジキのまま下りた。柿小学校附近 P に戻り、皆と別れる。

4年前の同時期に、午前で土曜出勤を切り上げ、午後発でこの山を目指した。しかし、登り始めのルート取りを間違えたことも原因だが、時間切れで途中まで出引き返した。また、昨年は一月末に4人で向かったが、深雪のラッセルもあり、やはり途中で断念した。

前日の夕方、天気予報をみて、かねてよりこの山を誘っていたミエコさんと行くことにした。彼女は午前中仕事である。更に当日になって昨年も同行して頂いた高橋夫妻にも声を掛けて、4人での楽しい山行となった。

